



地域アセスメントの結果から、自分の村の健康問題を導き出します

セブ通信

フィリピン・セブ島北部
地域保健衛生事業の現場から

vol. 5

2017. 1. 31 田村 由美

地域アセスメントの結果は・・・？

10月に「地域住民参加型保健事業（CBHFA＝Community-based Health and First Aid）」の研修を受けた、総勢183人の地域保健ボランティア。11月からは、それぞれの地元でもある15の村でいよいよ活動を始めました。健康問題に対する啓発活動を行うために、まずは各村で地域アセスメントをして取り組むべき健康問題を明らかにしました。さて、どんなことが問題として挙がってきたのでしょうか？

感染症？ それとも生活習慣病？

ボランティアがアセスメント結果を踏まえて健康問題を選出する前に、私は自分なりに予想を立ててみました。

フィリピンに派遣されるにあたって、私はなんと9本もの予防接種を受けてきました。狂犬病や破傷風など感染症のワクチンです。デング熱やチクングニア熱など蚊が媒介する感染症を予防するために、虫よけスプレーや蚊取り線香もしっかり準備してきました。飲み物・食べ物にも注意を払いますし、もちろん手洗いも欠かしません。事業対象の村を訪問すると、簡易診療所にデング熱などの感染症のポスターが貼られているのをよく見かけます。これらのことから、感染症に対する予防や対処は、事業対象の村に住む人々にとって大きな課題ではないかと思いました。

一方で、フィリピンに来て気づいたことが2つあります。1つは肥満の人が多くことです。食事を見ていると、フィリピン人はあまり野菜を好まず、ごはんが肉とお米だけというのもよく目にします。甘い味付けが多く、ご飯のお供にジュースが出てきます。肥満は富の象徴という側面があり、テレビCMではぽっちゃり体形の子どもが頻りに登場します。もう1つは、都市部や街の空気の悪さです。ひっきりなし

に車やバイクが行き交い、マスクなしで10分も街を歩いていると排気ガスや砂ぼこりでのがいがいがします。生活習慣や環境による疾病も多いのでは？と思いWHO(世界保健機関)のデータを見てみると、2012年のフィリピンの死因の第1位は虚血性心疾患、2位は脳梗塞・脳出血、3位は肺炎、あとは糖尿病、結核、高血圧性心疾患、COPD、腎臓病、暴力、喘息と続きます。

村の人々の関心は

こうした状況の中で、地域保健ボランティアや村人がそれぞれの村の健康問題として何を取り上げるのか、私はとても興味を持ってアセスメント結果の発表会に参加しました。発表会では、まず地域アセスメントの結果をボランティアと村人が一緒に決めます。ファシリテーターを務めるフィリピン赤十字社スタッフが「この村の健康問題には何があると思いますか？」と問うと、どの村でも真っ先に「高血圧！」という声が上がります。続いて下痢、発熱、咳嗽などの意見が出てきました。フィリピンの中でも地域性はありますが、セブ島北部では生活習慣病も感染症も、どちらに対しても人々の関心が高いようです。

CBHFAでは、このように行政による統計結果よりも住民が取り組みたいトピックを優先します。住民が「優先度が高い」と思うことがらについて、活動を展開していくというわけです。アセスメント発表会を経て決定した村ごとの健康問題について、今後は地域保健ボランティアが村の人々に向けて健康教育を行っていきます。ボランティアがどのような健康教育を行って、村の人々はどのように変わっていくのか、引き続き活動を見守っていききたいと思います。



2か月間のアセスメントの結果を発表

発表はどサヤ語で行われます。時々出てくる英単語や図表から私もなんとなく内容を把握できますが、ボランティアの熱い発表を十分に理解できないのが残念です。



島の未来を担う学生たちも参加

ロゴンという村の発表会には、村長レックスさんの呼びかけで、日本でいうところの高校2、3年生約60人が参加しました。「この美しい島を守っていくのは、君たち若者だ」というレックスさんのスピーチに、みんな真剣に耳を傾けていました。